

## ブロッコリースプラウト由来成分「スルフォラファングルコシノレート(SGS)」の 長期摂取(3.5年間)が、認知機能の維持に寄与する可能性を確認

～ 軽度認知障害(MCI)を含む高齢者を対象とした長期研究で、記憶機能維持への可能性を見出す ～

カゴメ株式会社(代表取締役社長:奥谷晴信 本社:愛知県名古屋市)と、弘前大学大学院医学研究科バイオメディカルリサーチセンター 分子生体防御学講座の伊東健教授(同大学 野菜生命科学講座 兼任)を中心とする研究グループは、軽度認知障害(MCI)と判定された方を含む、認知機能低下リスクが高い高齢者を対象に、機能性成分”スルフォラファングルコシノレート(別名:グルコラファニン、以下 SGS と記載)”(\*1)の長期摂取効果を検証しました。研究参加者には定期的な運動指導とあわせて、3.5年間(42か月)にわたり SGS を継続摂取してもらいました。その結果、認知機能(特に記憶機能)の指標である MPI(Memory Performance Index: 認知機能指数)スコア(\*2)について、SGS を摂取したグループは、非摂取グループに比べて良好な状態を維持していたことが確認されました。本研究結果は、2026年1月26日、オンライン雑誌「Frontiers in Nutrition」に掲載されました。

なお、本研究は、岩木健康増進プロジェクト(\*3)の健康ビッグデータを有する、弘前大学 COI-NEXT 拠点(\*4)の参画機関として実施したものです。

### ■ 発表のポイント

- **3.5年間という長期的な認知機能の維持を確認**  
認知機能低下リスクの高い高齢者を対象に、SGS を用いた栄養介入を 3.5 年継続した結果、認知機能指数である MPI スコアが、非摂取群と比較して長期間にわたり良好に維持されていることを確認しました。3.5 年という長期の介入効果を検証した例は世界的にも極めて限られており、貴重な研究成果です。
- **MCI(軽度認知障害)の方において、試験終了時点(3.5年後)でより明確な効果**  
研究参加者のうち、試験開始時に MCI と判定された方々のグループでは、試験終了時点(3.5 年後)の認知機能維持効果がより明確に示されました。

### ■ 研究の背景

認知症は、正常な状態から「軽度認知障害(MCI)」を経て進行するとされており、MCI の段階は将来のあたまたの健康を守るために適切な対策を検討すべき重要な時期です。本研究グループは、生体内の生体防御機構「Nrf2」を活性化させる作用を持つ、ブロッコリースプラウト由来成分 SGS に着目しました。これまで、健康な高齢者を対象とした短期間の介入試験では、SGS が認知機能に良い影響をもたらす可能性が示されてきました(\*5)。しかし、MCI の方を含むリスク層に対する効果や、1年を超える長期的な予防効果に関するデータは十分ではありませんでした。そこで本研究では、SGS を 3.5 年という長期間にわたり継続摂取した場合に、あたまたの健康状態をどの程度維持できるかを詳細に検証しました。